

< 都市住民等との交流を実施している事例 >

## 寒川棚田と共生した地域づくり

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	熊本県水俣市 <small>さむかわ</small> 寒川			
協定面積 9.32ha	田 (97.25%)	畑 (2.75%)	草地	採草放牧地
	水稻	野菜等		
交付金額 193万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	・集落の各担当者の活動に関する経費 (役員報酬)		6.2%
		・河川・棚田景観作業費		11.7%
		・水路・農道管理費		3.7%
		・鳥獣害対策費		23.3%
	・その他		5.1%	
協定参加者	農業者20人			

### 2. 取組に至る経緯

寒川集落は熊本県の南部、鹿児島県と隣接する水俣市の東部に位置し、かねてより棚田地域として知られている地域にあり、水稻を中心とした作付けが行われていました。

しかし、集落の高齢化とそれに伴う担い手不足等により、世帯によっては耕作を断念せざるを得なくなるような状況が現れ始めたことから、日本の棚田百選にも選ばれた棚田を集落全体で維持管理し、次世代の子や孫へ引き継いでいくため、平成12年度に直接支払制度の開始を受けて集落協定を締結しました。

### 3. 取組の内容

当初は、水路農道の維持管理など営農活動をメインとした活動でしたが、水俣市久木野ふるさとセンター・愛林館と連携した耕作断念田活用やグリーンツーリズムなど活動の幅を広げながら、第2期対策まで協定を継続し現在に至っています。

また、寒川集落は集落に残る技術や芸能、味、暮らしを屋根のない博物館に見立てて、そのまま展示する「村丸ごと博物館」の地域として様々な取組を行っている他、5月には田植えのために水を張った棚田に、約2,000本の竹のたいまつを立てて飾る「棚田のあかり」を開催しています。



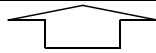
水路の管理 (草刈作業)



棚田のあかり

[ 集落の将来像 ]

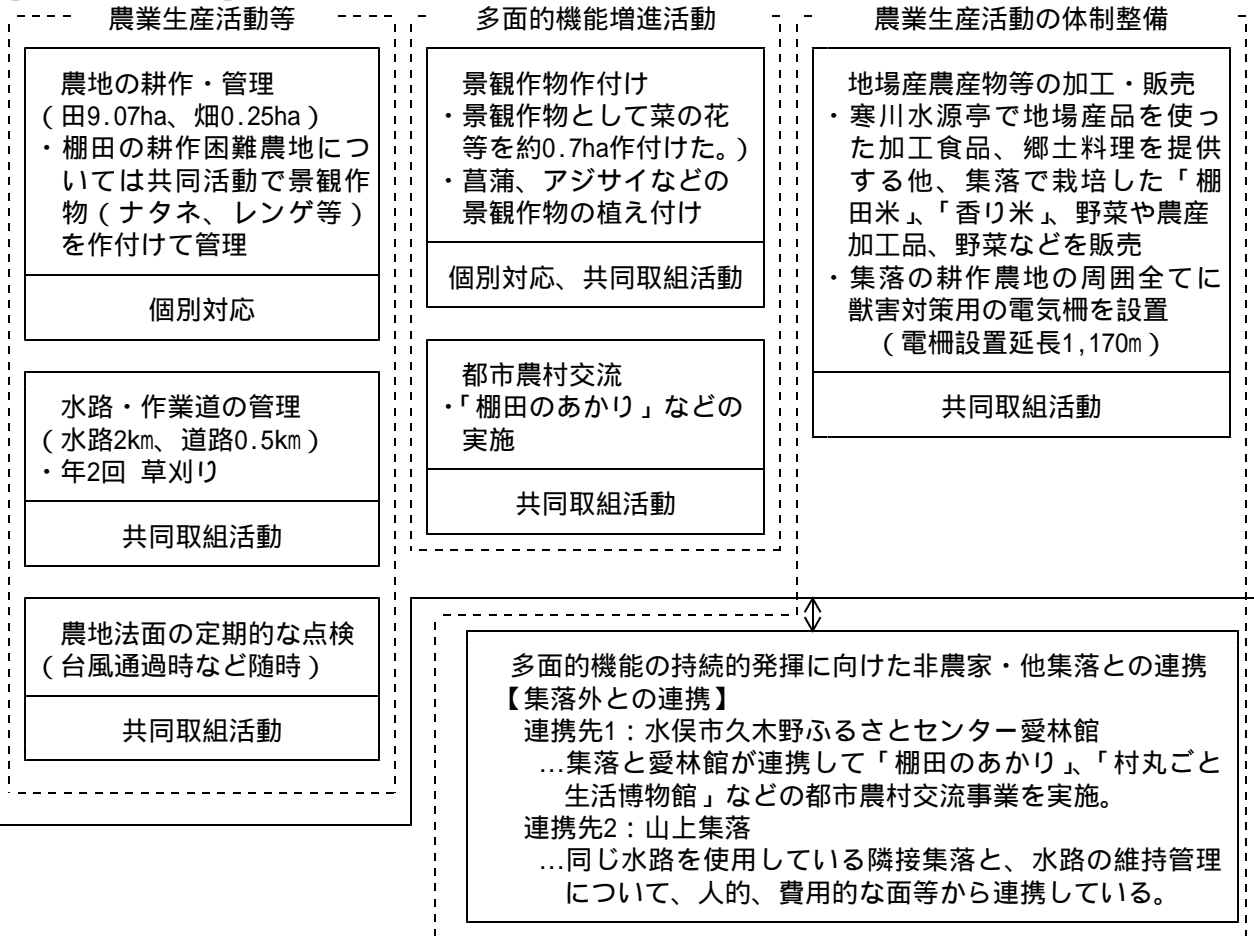
農道等の管理は集落全体で行い、各農家で高付加価値型農業を営みつつ、基幹作業の共同化による集落営農を目指す。



[ 将来像を実現するための活動目標 ]

協定地域内の水路、農道等については、協定参加者全員の参加による草刈り、泥上げを年2回程度実施。適宣水路等の見廻りを実施し、補修等が必要と認められる場合においては、速やかに集落で作業を行うものとする。

[ 活 動 内 容 ]



4. 取組による変化と今後の課題等

都市部住民との交流を通じて、地域資源としての棚田の有用性を再発見できた。

今後は、高齢化等により耕作困難となりつつある集落構成員へのフォローを行いつつ、イベントなどの交流事業をとおして、集落の「味方」を増やしながら 寒川棚田を後生に引き継いでいきたい。

[ 平成20年度までの主な成果 ]

機械の共同利用による営農の効率化(草刈機械等の共同利用)

(水路・農道の草刈り作業：制度開始当初 0 ha、目標0.85ha、H20実績1.1ha)

都市住民との交流による地域の活性化

・「棚田のあかり」参加者の増((H18)10ha、-名、(H19)30ha、300名、(H20)30ha、400名)

寒川水源亭(運営：寒川婦人会)

・利用者数(営業期間4月～8月) H18：12,800人、H19：12,400人、H20：12,255人